

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第47週（11月16日～11月22日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、咳エチケットが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第47週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は833例であり、前週比10.8%増であった。昨年同週比62.1%減（2019年 第47週2,197例）と少ない状況である。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.26、0.66、0.40、0.28、0.26であった。

感染性胃腸炎は前週比14%増の443例で、大阪市西部3.60、南河内3.19、泉州3.10、北河内3.00、中河内2.90である。

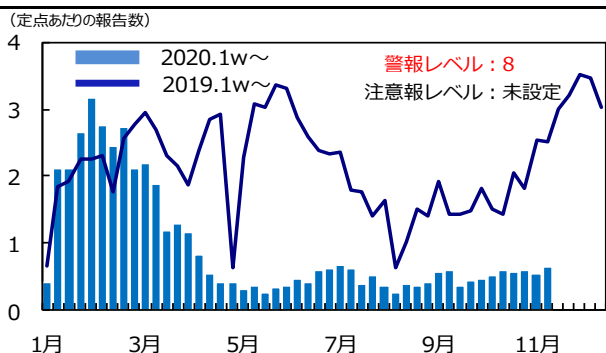
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比22%増の129例で、中河内1.90、泉州0.90、南河内0.88であった。

ヘルパンギーナは前週比8%減の54例で、南河内1.13、北河内0.50、大阪市東部0.33である。

水痘は前週比11%増の51例で、泉州0.75、大阪市北部0.43、堺市0.37であった。

インフルエンザは2例増の4例であり、昨年同週比98.9%減（2019年 第47週 363例）と少ない状況である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎

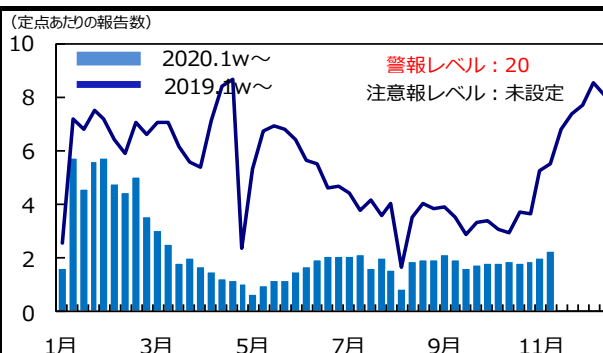


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第47週11月16日～11月22日）

第47週の順位	第46週の順位	感染症	2020年 第47週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第47週の 定点あたり 報告数	2020年第47週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.26	14%増	5.49	10-14歳_16%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	22%増	2.50	4歳_18%
3	3	突発性発しん	0.40	1%増	0.33	1歳_44%
4	4	ヘルパンギーナ	0.28	8%減	0.10	1歳_39%
5	5	水痘	0.26	11%増	0.46	6歳_18%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	100%増	1.21	20歳以上_50%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第47週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防（手洗いや咳エチケットなど）の徹底を

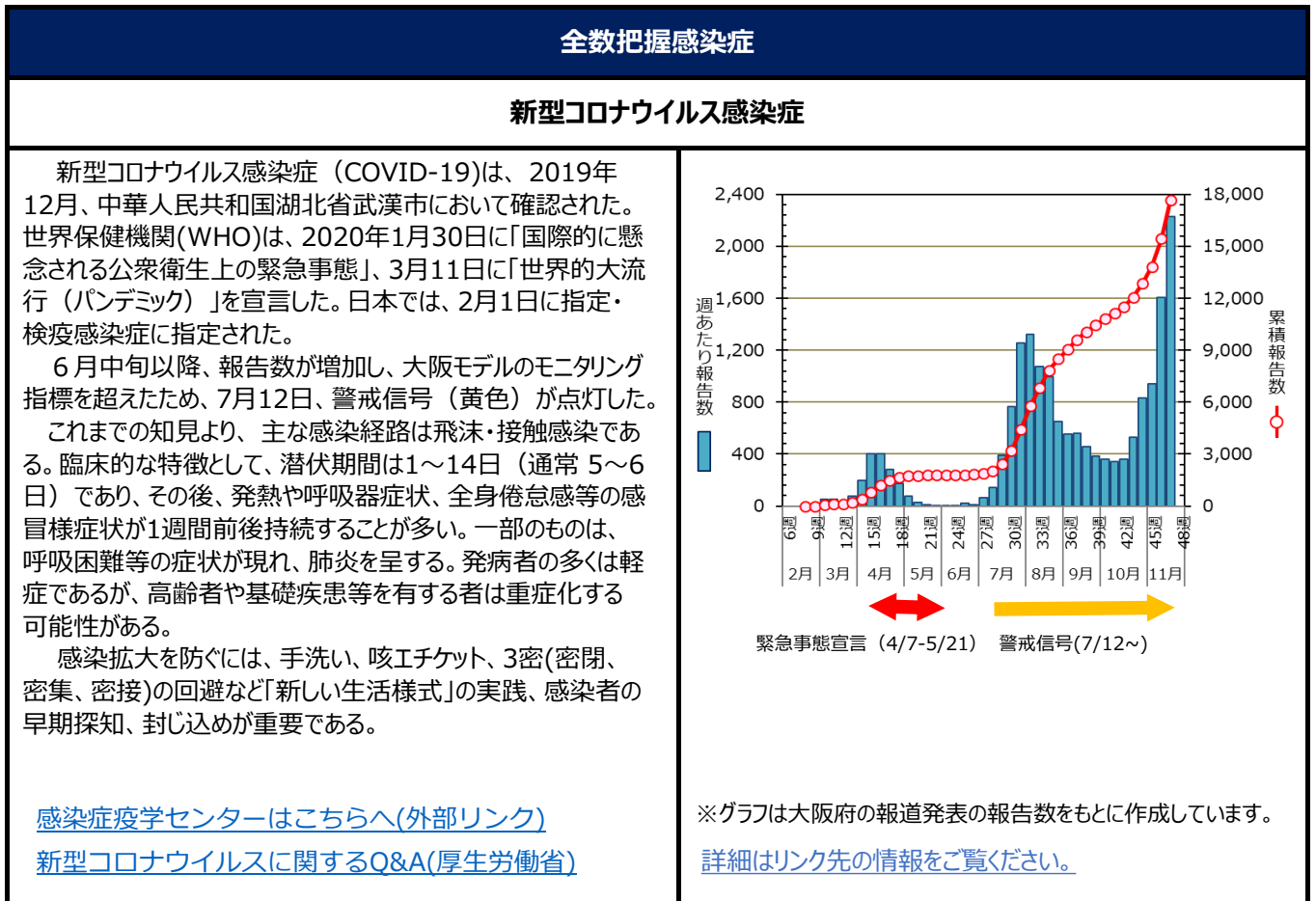


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第47週11月16日～11月22日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1						1			140
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1				1					129
	急性脳炎	1								1	17
	後天性免疫不全症候群	1			1						96
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	97
	梅毒	3	1						1	1	803
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	2,226									17,647
結核 (2020年9月分)	結核 新登録患者数：122名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 54名) (府内累積報告数 1,101名、内 肺・喀痰塗抹陽性 416名)										

(2020年11月24日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、11月16日から11月22日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)